

項目	観点	教科書名				
		新しい書写(2・東書)	中学校 書写(11・学図)	現代の書写(15・三省堂)	中学書写(17・教出)	中学書写(38・光村)
1 学習指導要領の教科の目標を達成するために扱う内容の選択について	○生徒が、文字を正しく整えて速く書くことができるようにするために、どのように配慮されているか。	・中学校で新たに学ぶ行書を「動きのパターン」と「形の特徴」の二つの視点からとらえさせ、パターンの理解から導入することで、誰でも簡単に行書を書けるようになるように配慮されている。 ・「書くときのポイント」として、行書の「動きのパターン」と「形の特徴」をインデックスにして毛筆教材の近くに示し、文字を書いているときにも確認できるように配慮されている。	・基礎的・基本的な解説のページは朱墨と薄墨を用いて視覚的にわかりやすく提示し、ねらいが十分理解できるよう配慮されている。 ・解説ページに朱書きを入れることで、一点一画、一字一字の基本的事項を習得でき、丁寧に書くことができるように配慮されている。	・穂先や筆圧についての解説を写真や薄墨図を多用し、わかりやすく解説している。 ・楷書と行書の筆脈を比較することで、それぞれの特徴や違いを理解し、字形を整えて書くことができるよう配慮されている。	・筆使いの拡大図版は、二色の薄墨によるわかりやすい解説が掲載されており、生徒自らが筆使いを確認しながら学習することができるよう配慮されている。 ・筆圧の違いを視覚的に分かるよう図で示し、注意点を意識して学習できるよう工夫されている。	・巻頭に小学校での学習内容をまとめた「基礎編」を設け、小学校からの円滑な接続を図るとともに基礎・基本を活用の中で定着できるよう配慮されている。 ・「学習の窓」で文字を整えて書くコツやポイントがひと目でわかるよう示され、楷書と行書の違いを比較することで、違いを理解しながら書くことができるように配慮されている。
	○生徒の文字感覚の育成や文字を自ら進んで工夫して丁寧に書く意識や態度を育てるようになるために、どのように配慮されているか。	・毛筆の学習を他の文字にも応用できることを「広げよう」で学び、自ら進んで丁寧に書く態度を育成できるよう配慮されている。 ・書写で学習したことが、他の教科や日々の生活の中でどのように生きているのか学習活動や日常生活の題材が具体的に示され、工夫して書くこととする意識や態度を育成することができるよう配慮されている。	・各単元の扉に、写真と導入教材が組み合わせて提示しており、文字や言葉のもつ意味や語感、イメージを大切にしながら書くことができるよう配慮されている。 ・字形を図形で示し、どのようにしたら整った文字が書けるのかを視覚的に理解できるよう工夫されている。楷書と行書の書き方の作品例を比較し、実際に書いて確かめることで、丁寧に書く態度を育成できるように配慮されている。	・毛筆の基本と手本の運筆が朱墨と薄墨で解説されている補助線を用いて文字の配置がわかりやすく、配慮されている。 ・巻頭の「目的に合わせて書こう」では、目的・相手・場面の意識をもたせ、表現効果を考えさせることで自ら進んで工夫して書くこととする態度を育てる配慮がされている。	・二色の手本に補助線を用いて字形や配置がわかりやすく、丁寧に書く態度を育てる工夫が見られる。 ・毛筆や硬筆が組み合わせて配置されていたり、「考えよう」に対するヒントが示されていたりして、考えながら丁寧に書くこととする意識をもって学習ができるように配慮されている。	・「目標」「学習の窓」「学習を振り返る」によって学習の流れをつかみ、毛筆で習得した基礎・基本を日常生活に生かして進んで書こうとする態度を育てるよう配慮されている。 ・国語の教科書と同じ題材の作例を、書くときのポイントとともに、手書き文字で掲載してあるため、意欲的に書くこととする態度を育てる配慮がされている。
	○生徒が、書写の能力を日常生活に役立てることができるようにするために、どのように配慮されているか。	・学習した内容を手紙文や掲示物・レポートや新聞のまとめ方、志願書やのし袋の書き方などの例示をし、生徒の日常生活に生かせるよう配慮されている。 ・日常生活や教科・領域の学習に必要な内容を取り上げている。	・学習した内容を依頼文やポスター・職場体験のお礼文の書き方・年賀状やエアメール・のし袋や荷物の送り状の書き方などの例示をし、生徒の日常生活に生かせるよう配慮されている。 ・発展として篆刻も紹介されている。	・学習した内容を生徒の日常生活に生かせるように、手紙文や掲示物・本の帯や感謝状などの例示をし、生徒の日常生活に生かせるよう配慮されている。 ・ノートのまとめ方や原稿用紙の使い方など学校生活で活用しやすいものが例示されている。	・学習した内容を生徒の日常生活に生かせるように、手紙文や掲示物・メッセージカードや暑中見舞いの書き方、のし袋の書き方などの例示をし、生徒の日常生活に生かせるよう配慮されている。 ・スピーチメモやインタビューメモなど目的や相手に合わせた表現活動としての書写も取り入れている。	・学習した内容を生徒の日常生活に生かせるように、手紙文・エアメール・はがきの書き方や新聞・リーフレット・レポート・願書やのし袋の書き方などの例示をし、生徒の日常生活に生かせるよう配慮されている。 ・各教科・領域や行事(体育祭や文化祭)との関連も取り入れている。
2 内容の程度及び取扱いについて	＜基礎・基本の定着のための工夫＞ ○生徒の発達の段階に即した教材等について、どのような工夫が見られるか。	・カラー2色の淡墨図を使い、毛筆の筆使いを視覚的にわかりやすく示している。 ・筆順や字形の仕組みを確かめるなど、基礎・基本をおさえられるよう工夫が見られる。	・カラー2色淡墨図や補助線、筆順など視覚的に示し、基本をおさえられるよう工夫が見られる。	・毛筆の基本点画をカラー2色淡墨図、連続写真で視覚的に提示するなど、基礎・基本をおさえられるよう工夫が見られる。	・点画の筆使いをカラー2色淡墨図、連続写真で提示し、筆圧を数字3段階で解説している。 ・中心線や補助線で字形の確認ができるようになっているなど、基礎・基本をおさえられるよう工夫が見られる。	・カラー2色の淡墨図や連続写真、筆圧を示す数字やリズムを表す擬態語で筆使いを示している。 ・点画のつながりや字形をつかむための補助線やキャラクターによるアドバイスで、基礎・基本をおさえられるよう工夫している。
	＜関心・意欲を高め、主体的な学習活動を促すための工夫＞ ○生徒に、日常の文字を「正しく整えて」書くことができるよう関心をもたせ、主体的な学習を促すために、どのような工夫が見られるか。	・自分の文字の課題を解決するために、「調べよう・広げよう・確かめよう」の3段階の手引きを設ける工夫が見られる。 ・キャラクターによるポイント解説や、「学習に生かそう」の部分で内容の定着を確認できる工夫が見られる。	・毛筆で練習したあと硬筆で練習したり、自分の試し書きと手本を比べることにより、自分の文字の課題を見つけ解決できるよう工夫されている。	・課題について話し合う「考えよう・話し合おう」のあとに「書いて確かめよう」で実際に書いて確かめることで、学習を進める工夫が見られる。	・最初の「試し書き」と最後の「まとめ書き」を比較することで、自己評価で学習内容の定着を確認できる工夫が見られる。	・基礎・基本を理解したあと実際に毛筆で確かめ、最後に学習したことを生かして硬筆で書くという流れになっており、自分で学習内容の定着を確認できる工夫が見られる。
	＜個に応じた指導のための工夫＞ ○生徒の経験や興味・関心などに応じた内容等の取扱いについては、どのような工夫が見られるか。	・「生活に広げよう」で、学んだことをこれからに生かしていけるような工夫が見られる。 ・3学年「生活を豊かにする文字」などで、チャートを取り入れた選択学習が設定されている。	・コラム「書写の窓」において、臨書を体験する発展的な内容を取り入れ、興味・関心に応じて学習できるように工夫がなされている。	・「生活に生かそう」において、学んだことをこれからに生かしていけるような工夫が見られる。	・選択課題や補充教材、学習を生かして書く発展教材を取り上げ、興味・関心に応じて学習できるように工夫がなされている。	・3学年ではこれまでの学習を生かした作品づくりができるような工夫が見られる。 ・各学年の「コラム」において、古典や文字文化などの伝統的な言語文化に触れながら学習することができる。

項目	観点	教科書名				
		新しい書写(2・東書)	中学校 書写(11・学図)	現代の書写(15・三省堂)	中学書写(17・教出)	中学書写(38・光村)
3 構成・配 列・分量	○教材の配列については、どのような特色があるか。	・各単元の末尾に「学習に生かそう」のページがあり、学んだことを確認できるように工夫が見られる。 ・コラムや資料が充実しており、学んだことを生活に生かせるようになっている。 ・各単元が、毛筆で基礎を確認し、硬筆へ広げる流れで構成されている。	・各単元が、毛筆で基礎を確認し、硬筆に広げる流れで構成されている。 ・自己評価の観点が各ページに掲載されている。	・各単元は毛筆の字形例と硬筆で構成されている。 ・各学年ともに「生活に生かそう」の部分で、手紙の書き方など学習したことを生活に生かせるようになっている。 ・自己評価の観点各ページに掲載されている。	・各単元が、右ページに毛筆の字形例、左ページに学習したことを生かして硬筆で書くという構成になっている。また、自己評価の欄も掲載されている。	・行書に入る前の楷書の部分を丁寧に取り上げている。各単元は、右ページに書き方のポイントが、左ページに毛筆の字形例が示されている。また、毛筆で学習したことを硬筆で確認できる構成となっている。 ・各単元末にはコラムが掲載され、学習に生かせる内容や書写への興味を喚起させる内容となっている。
	○硬筆・毛筆の解説及び教材文字の分量については、どのような特色があるか。	・毛筆の手本は朱墨と薄墨の2色で解説されている。 ・教材は、学校行事の流れにそった配列であり、補助線などで字形、字間などのバランスがわかりやすくなっている。	・毛筆の手本は朱墨と薄墨の2色で解説されている。 ・オレンジ色の文字や記号で解説が明記されている。	・吹き出しを利用した解説が多く、内容が細かい。 ・気を付けるべきポイントについては、文字や補助線等で示されている。	・毛筆の手本は朱墨と薄墨の2色で解説されている。	・毛筆の手本は朱墨と薄墨の2色で解説されている。 ・学年ごとに練習ができる教材を配列し、気を付けるべきポイントについては、「学習の窓」の部分で示されている。
4 表記・表現	○写真、イラスト、用語の表記・表現については、どのような工夫が見られるか。	・教材ごとに使用する筆記用具をアイコンで表示している。	・縮小した手本に詳細な留意事項が赤で記載されている。	・縮小した手本は灰色で表記され、留意事項が見やすくなっている。	・筆先の形が連続写真で示されていることで、筆圧の違いが意識できるようになっている。	・書くときのポイントについて自分で考えることができるよう、記入式になっている。
5 体裁、使用上の便宜	○色使い、書体、文字の大きさ、字間、行間、注記等について、さらに、表紙の構成や口絵、写真などのレイアウト等について、どのように配慮されているか。	・B5の横を2cmほど伸ばす形にすることで、作品手本の余白を確保しつつ「書くときのポイント」を帯状に示すなど配慮されている。	・実物大の手本を数多く掲載することで、文字の大きさや太さを実感しながら書くことができるなど配慮されている。	・同じ内容をレイアウト(書体・文字の大きさ・書く位置等)を変えて掲載することで、違いが比較できるようになっているなど配慮されている。	・太筆・小筆の毛筆の持ち方が2種類ずつ、手元のアップの写真で示されているなど配慮されている。	・灰色表記でなぞり書きができるようになっている箇所が数多く設けられているなど配慮されている。